

小松市における介護保険事業計画の見直し ～ほこりを被っていたデータの活用～

小松市長寿介護課
保健師 角地 孝洋

小松市の概要

小松市は、石川県西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展し、南加賀の中核を担っています。

東には靈峰白山がそびえ、その裾野には緑の丘陵地、そして田園、平野が広がっています。それを縫うように梯川が流れ、安宅の海に注いでいます。

自然・産業・文化



人口・世帯数（令和7年4月1日現在）

- 人口 105,067人（男 51,734人 女 53,333人）
- 世帯数 45,977世帯
- 一世帯あたり人数 2.3人

65歳以上人口 30,527人

高齢化率 29.1%

要介護認定率 16.9%



小松市ゆるキャラカブッキー



自己紹介

- 1979年 金沢市生まれ
- 1998年 千葉大学看護学部入学
- 2002年 千葉大学看護学部卒業・小松市役所入庁（いきいき健康課）
- 2008年 地域包括支援センターに異動
- 2011年 東日本大震災発生（震災支援で役に立たず悩む）
- 2012年 長寿介護課に異動・石川県立看護大学大学院入学
- 2015年 石川県立看護大学大学院卒業
- 2024年 地域交通政策室に兼務辞令
- 現在に至る

気づけば介護に17年

計画は第5期計画から眺めていました



当初の介護保険事業計画の課題

課題 1 事業を知らない一部職員で作成

認定担当

認定しかもっていない
情報もある

介護保険担当
(給付・指定・徴収)

一人の事務職員がほぼ
一人で計画を作成して
いた時代も

地域包括ケア推進担当

事業内容やアウトプッ
トの記載だけ依頼され
て、とりあえず埋める

課題 2 データと事業の資料集と化しており、事業 の創出や評価がされていない

基礎資料（人口等）

- ・資料としては使える
- ・その値が何を意味するの
か分析がない

既存事業

- ・やっている事業が中心
- ・計画期間中にとりあえず
アウトプットを増やす

各種調査データ

- ・業者が調査を実施
- ・分析というより、基礎統
計の説明中心

データは放置されたまま活用されず、地域の実情に合った
介護予防事業が創出されるような状況ではなかった

計画の策定体制・全体構成を見直し

見直し1 課全体（事務職・専門職）で作る体制を構築

- 計画策定担当に、地域包括ケア推進担当から1名保健師を担当替え
- 課全体で定期的に「計画策定のための会議」を実施
- 「数だけ更新する」のではなく、「今後どうしていくべきか」が考えるための計画として、刷新する

ビジュヨン	大目標	○語尾は「～できている」 ○「地域が目指す望ましい姿」 ○Not 達成手段		
	中目標	○語尾は「～できている」 ○「地域が目指す望ましい姿」 ○Not 達成手段	参照指標	中目標の進捗を測る指標
現状分析	検討事項	○語尾は「～は何か？」 ○中目標（参照指標）を達成するために「何が必要か？」という問い合わせ		
	実態把握	検討事項の問い合わせに答えるために必要な「把握すべき地域の実態」※各種調査		
	サービス提供体制の構築方針	実態把握を受けた方針（具体的事業ではない）		
	重点施策	具体的事業。数値目標あり。要進捗管理。		
	その他の施策	具体的事業。数値目標なし。		

見直し2 分析の起点となる「目指す姿」をしつかり設定

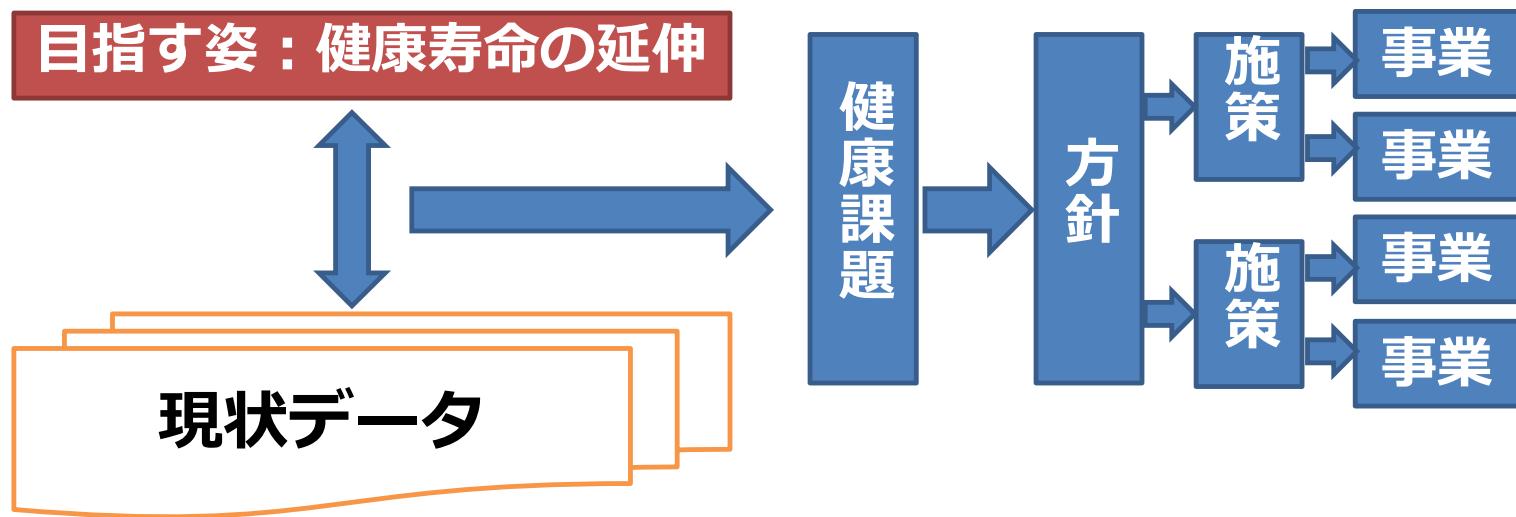
- 「目指す姿」を多職種協議体（地域ケア会議）で「大目標」として設定
- 「大目標」のフレーズから、「中目標」を設定

見直し3 現状分析-課題抽出をデータを活用しておこなう

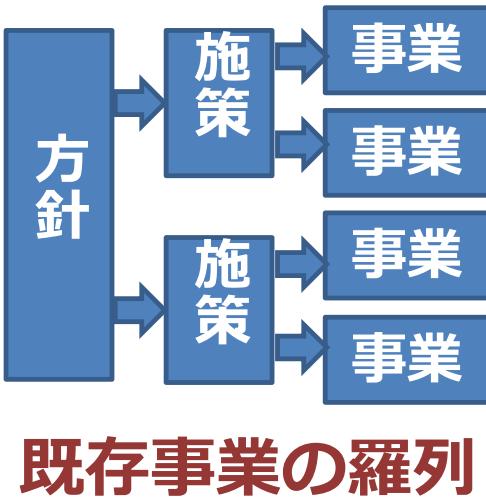
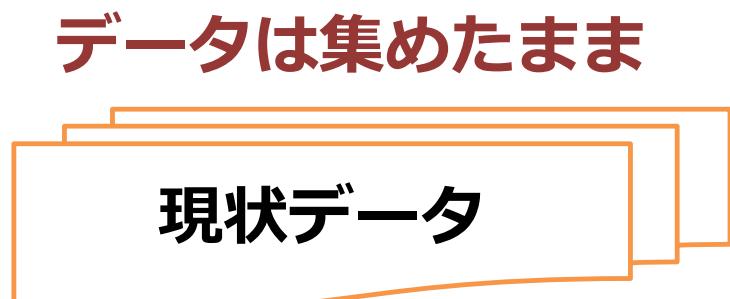
膨大なデータをどうするか？

「介護の現状分析」を保健師がする「地域診断」っぽく考えてみた

保健の 地域診断

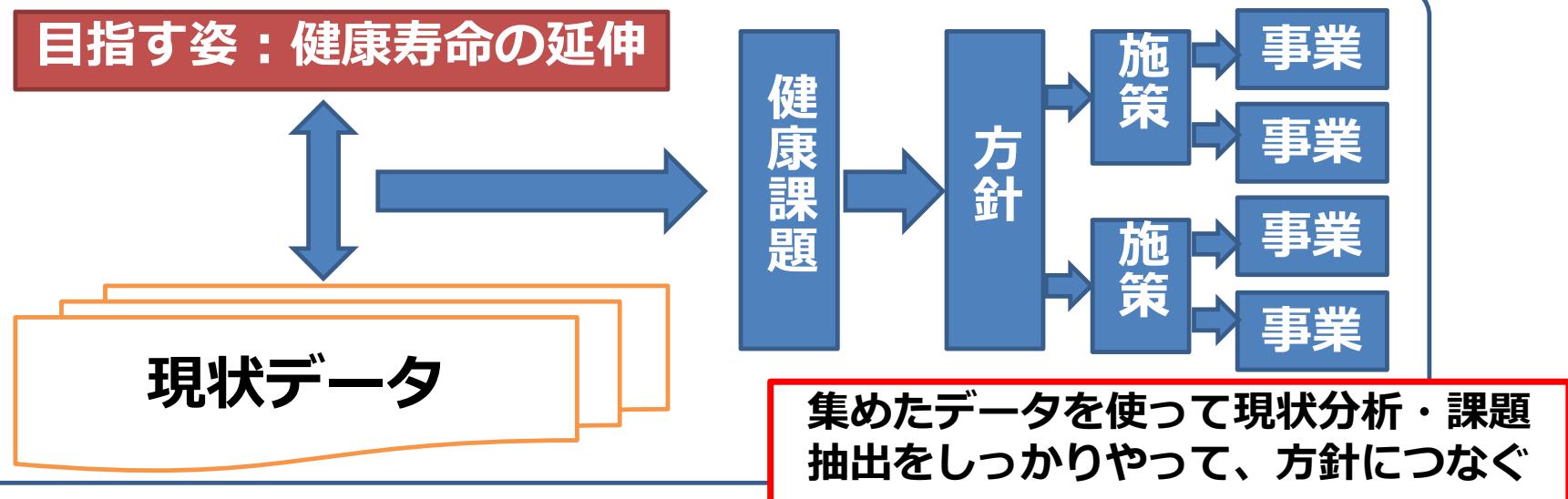


介護の 現状分析

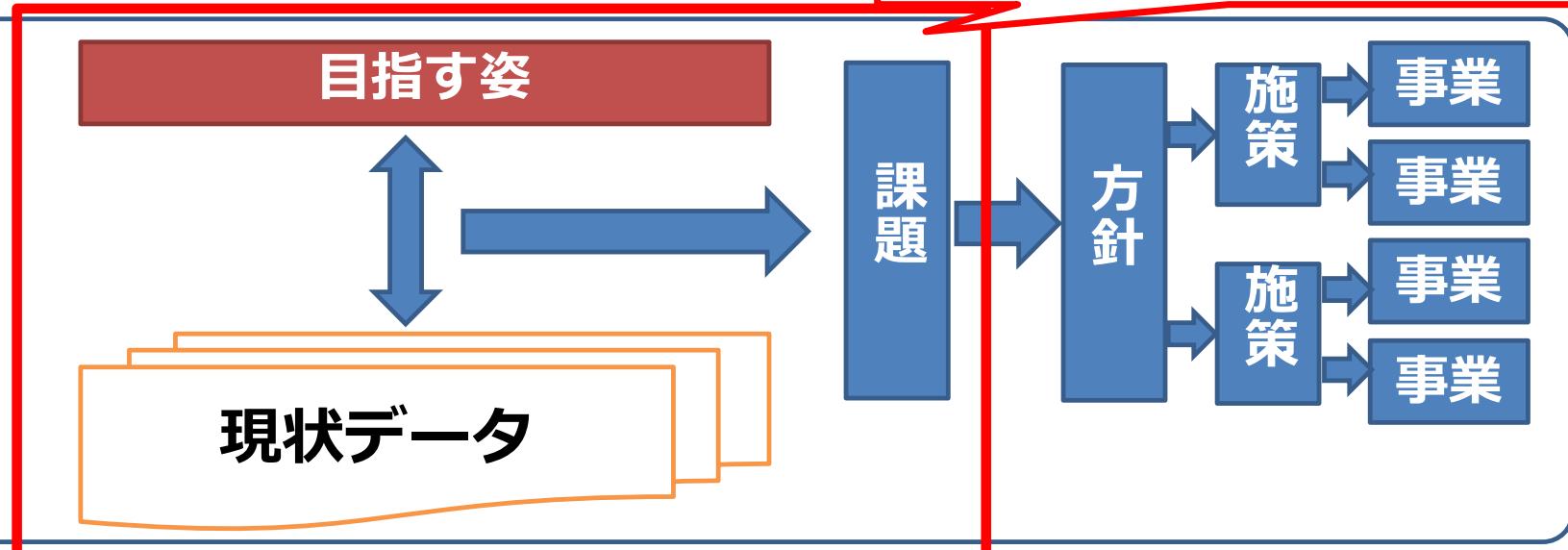


「介護の現状分析」を保健師がする「地域診断」っぽく考えてみた

保健の 地域診断



介護の 現状分析



目指す姿の設定

大目標

どのような状態になっても、地域で支え合い、住み慣れた地域で、できる限り自立しながら安心して暮らし続けることができている

中目標

要介護にならないよう、介護予防に取り組むとともに、支援が必要な時は、必要な支援を受け、自立した生活を継続できている

中目標

変化する社会に対応しながら、安心した生活を支える担い手として活躍できる地域の人材（専門職・住民）が充足している

中目標

状態に応じた支援が地域や専門職の力により提供され、安心して生活ができている

中目標

当事者・家族・地域が安心した生活を続けることができている

現状分析に使うデータの用意

- 構成の全見直しだったので、とりあえず情報はなるべく多く
- 調査だけではなく、日々蓄積されている情報も活用
- 質的情報も重視（ないとデータの解釈が難しい）
- 量的情報はなるべく経年・他市比較できるように（ないとデータの解釈が難しい）

【量的情報】

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- 在宅介護実態調査
- 介護サービス供給量に関する調査
- 介護サービス事業者調査
- 施設入居待機者に係る実態調査
- 在宅生活改善調査
- 居所変更実態調査
- 介護人材実態調査
- 要介護認定原因疾病調査
- 各種事業実績
- 見える化システム・KDBシステム

+

【質的情報】

- 各種協議体の意見
- 地域包括支援センターの意見
- 地域の専門職の意見
- 地域サロンの声

漠然と眺めているだけでは課題はでてこない

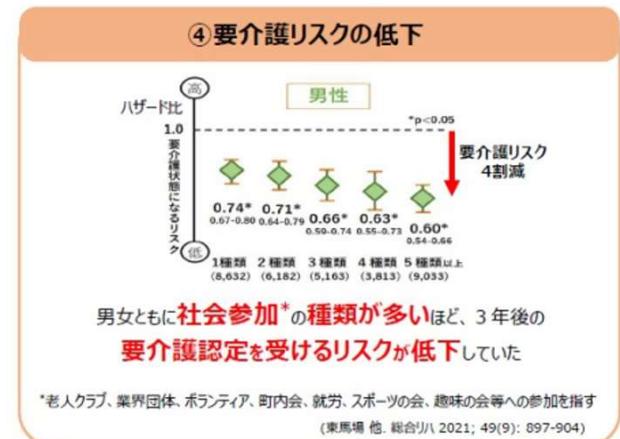
「目指す姿」を意識して考えることに

純粋な疑問・現場の肌感覚からきっかけを作る

中目標

要介護にならないよう、介護予防に取り組むとともに、支援が必要な時は、必要な支援を受け、自立した生活を継続できている

●着目したキーワードから目指す姿に至るための「問い合わせ」や「仮説」を立てる



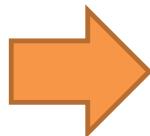
●日本老年学的評価研究 (JGES) では、通いの場への参加が介護予防につながると報告されている

じゃあ、うちの地域サロンの状況は？

●実際のデータ（量・質）を見てみる

(事業実績)
サロン設置数

	H30	R2	R5
いきいきサロン	189	189	182
ゆったりサロン	18	27	25



減っている地域サロンをもっと増やさないといけない‥？

そもそもどうして減っているの？

そもそも減って困っているの？

「問い合わせ」と「データを見る」ことを繰り返し、課題を掘り下げる

中目標

要介護にならないよう、介護予防に取り組むとともに、支援が必要な時は、必要な支援を受け、自立した生活を継続できている

●問い合わせの結果を掘り下げる → データを探す

そもそもどうして減っているの？

(地域の声)
世話人の声

- 高齢化が進んで体操に来れない人が増加
- 活動がマンネリ化して、困っている
- 自分も高齢化してきて辛い

そもそも減って困っているの？

(事業実績)
参加割合

	市	国KPI
通いの場に参加している高齢者	16%	8%
	R2	R4
何かしらの活動に参加している人	59.6%	66.3%

この繰り返し

- 来れなくなった人の支援が必要かも
- サロンの数を増やすどころか持続可能性に問題ありかも

(ニーズ調査)
活動への参加

- 地域サロンは充実しているのかも（困っていないかも）
- 地域のサロン以外を選択する高齢者が増えているのかも

課題を掘り下げる結果

中目標

要介護にならないよう、介護予防に取り組むとともに、支援が必要な時は、必要な支援を受け、自立した生活を継続できている

●掘り下げ前

	目標値		
	H30	H30	H31
いきいきサロン	193	197	200

地域サロンという「手段」をどうするかという視点→「増やせばよい」

●掘り下げ後

いきいきサロンが増えればよい →多様な活動のサロンを増やすことが必要
▶民間事業者の力を活用（いろどりサロン）

いきいきサロンは定着・安泰 →ボランティア・参加者の高齢化への対応
▶地域包括支援センターへのリハ職配置→サロン支援事業
▶民間事業者の力を活用（こまついきいき応援団）

参加者が増えていればよい →参加できなくなった人の支援が大切
▶短期集中予防サービスの充実

データがほこりまみれにならないように

そもそも「量的情報」のみから「課題抽出」をするのは難しい

評価には使える

【量的情報】

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- 在宅介護実態調査
- 介護サービス供給量に関する調査
- 介護サービス事業者調査
- 施設入居待機者に係る実態調査
- 在宅生活改善調査
- 居所変更実態調査
- 介護人材実態調査
- 要介護認定原因疾病調査
- 各種事業実績
- 見える化システム・KDBシステム

- 「量的情報」から分かるのは状況だけ
→課題として認識するためには、少なくとも比較や対比ができるものが必要

目指す姿

経年比較

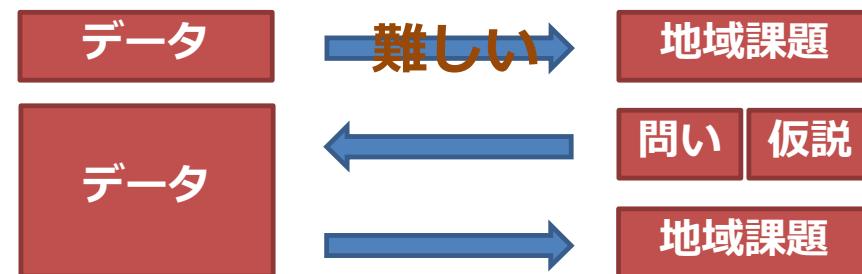
地域比較

- 「量的情報」の結果を意味づけするためには、「質的な情報」が大切。

特に地域の声は大切

- 「問い合わせ」・「仮説」からデータを見る方が簡単

計画策定のタイミング的に、「データ」が先に集まってしまいがち



計画を全面見直しした後、次期計画策定に向けての工夫

データは「集める」ためのもの（目的）ではなく、目的があつて「集める」もの（手段）

「問い合わせ」や「仮説」は日々整理し、計画策定時に調査できるようにしておくとよい

小松市第9期計画：「多様性」が視点に追加

多様性のある地域サロン



そもそも高齢者はどんな活動をしたいの？

既存調査には
ない項目

(デイが安いので) 自己負担はどれくらいまでならできるの？

「問い合わせ」や「仮説」は、相談業務や地域との会合、各種協議体等、地域に出ると沢山落ちている

【ニーズ調査独自項目】

- 年齢を重ねても、参加したいと思うものは？

【ニーズ調査独自項目】

- いくらまでなら利用しようと思いますか？

ご清聴ありがとうございました



小松市ゆるキャラカブッキー